まちを歩く
人権のかおりを求めて

第26回

大阪市東住吉区

# 大阪にも原爆
## －模擬原子爆弾投下跡地－

大阪市営地下鉄谷町線「田辺」駅を出て西に100m。静かな住宅街の細い路地から広い通りに出る角に、「模擬原子爆弾投下跡地」の碑がある。その横には看板があり、7·26田辺模擬原爆追悼実行委員会ニュースが掲示されている。「大阪になぜ原子爆弾が…」との疑問が湧きあがった。

太平洋戦争終了直前の1945年（昭和20年）7月26日午前9時26分。この大阪市立田辺小学校の北側に大型爆弾が投下された。この爆弾によって、死者7人、重軽傷者73人、倒壊家屋485戸、被災者1,645人の被害が出た。この爆弾は5トン（1万ポンド）もあり、原子爆弾を投下するための模擬の爆弾であった。アメリカ軍は、原子爆弾を落とせば投下した爆撃機も炎と熱にやられる可能性があるので、原爆と同じ重さや大きさの爆弾で投下の練習を繰り返していた。日本国内でも49もの投下練習がなされたという。

この日に、投下予定の富山が雲で覆われていたため、目標を大阪に変えて、長崎型原爆と同じ形の模擬原子爆弾を大阪市東住吉区に投下したのであった。そして、この模擬原爆投下の11日後に広島に、14日後に長崎に、本物の原子爆弾が投下されたのである。

この爆撃が模擬原爆であったことがわかったのは、戦時中のアメリカ軍の文書が明らかになった1991年になってからであった。これ以後、被災者からの情報が寄せられ、1993年には「原爆模擬爆弾の証言集」、2001年には「田辺の模擬原爆証言集」がつくられるとともに、地域の人たちが追悼式を行うようになった。

そして、この事実を後世に伝えようと、この爆撃で犠牲になられた村田繁太郎さんのご遺族が、この碑を建立された。碑には、次のように刻まれている。

> 1945年7月26日9時26分、広島·長崎の原爆投下を想定して、この田辺の地に模擬原爆が投下され、村田繁太郎（当時55歳）他6名が死亡、多数の方が罹災しました。ここに犠牲者の冥福をお祈りし、戦争のない世界の実現と全人類の共存と繁栄を願い、碑を建立します。

この碑は、広島と長崎に投下された原子爆弾が遠い地のことではなく、それにつながる事実が私たちのすぐそばにあることを伝えている。毎年7月には、地域の自治会や遺族の方々が集まり、模擬原爆投下犠牲者追悼式が催されるという。さまざまな戦争の惨禍と犠牲の上を、今、私たちが歩いていることを感じさせてくれる。